

経済学と聖書(1)

2020年5月8日(金)

10:35~11:05

関西学院大学経済学部

春学期チャペル

担当：井口 泰

春学期の予定「経済学と聖書」

5月8日	疫病と経済	ヨハネ8：31－32
5月15日	ペストとプロテスタンティズム	イザヤ43：1－2
5月22日	健康と貧困	ルカ 16：19 - 25
5月29日	気候変動と経済	ローマ 8:18-22
6月5日	経済における恐怖と勇気	ダニエル10：1－19
6月12日	ビッグデータと世界	歴代誌Ⅰ 21：1－10
6月19日	疾病と経済格差	マタイ13:12
6月26日	経済における信頼と希望	詩編22：1－8
7月3日	逆境に働く力	コリントⅡ12：9
7月10日	業績主義と経済	コリントⅠ13:13

He shall feed His flock like a shepherd
 詞：聖書の聖書から

MESSIAH
 曲：Georg Friedrich Händel "Messiah", 1741
 編曲：中田正康, 1896-

♩=126 主はそのむれを やしないたもうす
 べてのひつじよ びあつめて
 ちびきたもう まようものをもた
 ずねいだし つよくやさしき
 いなをも あいのまきばにと

も ない たもう いまも なお

イザヤ 40:11 ヨハネ 10:7-11 マタイ 11:28-30

1

主はその群れを やしないたもう。
 すべてのひつじ 呼びあつめて
 みちびきたもう。
 まようものをも たずねいだし、
 つよくやさしき 腕をもて
 あいの牧場に ともないたもう、
 いまもなお。

2

「重荷を負いて なやむ子らよ、
 とくわがもとへ かえりこよ」と、
 みこえきこゆ。
 こころやさしき 主にしたがい、
 くびきを負いて ともにあゆめ、
 やすきとさちを あたえたまわん、
 とこしえに。

第1回 疫病と経済

ヨハネによる福音書8:32「あなた方は真理を知り、真理はあなたがたを自由にします」(新改訳聖書)

近年、人体の機能は、数百億の微生物の働きによって支えられていることが解明されています。同時に、人体は病原性の細菌・ウイルスの侵入に対して、脆弱なままなのです。

今回の新型コロナウイルスは、中国で最初に感染拡大し、現在は、欧州が感染の中心になってしまい、北米大陸に波及して、南米やアフリカへの蔓延が危惧されています。

近世に至るまで、疫病は「悪魔の仕業」と考えられ、感染症に対する無知が恐怖心と社会的なパニックを引き起こしました。旧約聖書では、紀元前10世紀ころの大規模な疫病の発生も記録されています。それが何であったか、正確に特定することはできません。

例えば、「ペスト」の起源は、ヒマラヤ南部又は中央アジアか、明らかではありません。ネズミを宿主とし、ノミなど昆虫を媒介し、人間に感染するようになり、紀元5世紀に起きた中国の人口大幅な減少さえも、その結果ではないかとも推定されます。

13世紀から15世紀、隊商による欧州とアジアの交易を担ったとされるシルクロードですが、広大な草原地域が大量死により空洞化した原因の一つは疫病であったと推定されます。欧州では、イタリアの港湾都市を經由してペストが侵入し、14世紀には人口が半減したとされるほどです。同時に、隔離・検疫といった保健衛生技術や都市の行政組織が強化された諸都市では、度重なるペストの感染拡大を乗り越えてルネサンスの時代を迎え、技術が進み人材が集まり、経済的繁栄を享受し、人口を回復したとみられるのです。

同時に、隔離による感染防止は、感染のリスクの高いなかで暮らす人たちを差別的に扱う大きな弊害を生みます。それが、更なる格差や貧困を生むことが懸念されます。

このように感染症と人類の関係は長いだけでなく、国際的な人の移動や地球規模の経済活動の拡大と深い関係にあることが見えてきます。既に、世界人口77億人の3.5%弱（2億7200万人）が1年以上の国籍以外の国・地域への滞在者（難民を含む）です。短期的移動は想像を絶する速度で拡大し、2019年の国際的ツーリズム（商用・観光・家族訪問など）は延べ14億人にも達したと推定されます。

私たちは、今回の新型コロナウイルスの感染が「パンデミック（地球規模の感染拡大）」に発展することを防げなかった重要な背景に、経済のグローバル化に伴う国際的な人の移動の拡大があることを理解すべきです。

「ロックダウン」（都市封鎖）といわれる感染拡大の荒療治は、都市人口が全体の1割前後に過ぎない時代に考案されました。しかし、都市化の進んだ現代は、経済活動を縮小させ巨大で深刻な副作用を生むのです。

2020年5月の日本でも、感染拡大の抑制と並んで、事業の存続、雇用の維持、それに貧困拡大の防止のため、一日を争う状況にあることを理解してください。

気候温暖化と同時に、今後、新たな感染症の発生や再発が予想されています。グローバルなリスクは、各国の「自国中心主義」だけでは、もはや有効に対処できないことを知るべきです。

新約聖書において、「真理」というギリシャ語は、隠されたものを明らかにするという意味で用いられています。

そもそも「真理」は、表面的なところになく、とても深いのです。だから、私たちが、安易にものごとを判ったつもりになってはいけないはず。また、危機をだれかのせいにするだけで、解決したと思って、安心してはならないはず。

ヨハネによる福音書を通して読めば、「真理」は、固定的でなく、歴史のなかで行われる創造のわざを意味するように思えてきます。このイエス様のことばを、総督ピラトは決して理解できませんでした。

「真理」が私たちが自由にするというのは、それは固定観念からの解放だけではないと思います。この「パンデミック」の時代に、特に重要なのは、私たち一人ひとりが、「ほかの人たちのため」に、なによりも、「自分自身から自由になる」ことだと思われま。

この危機を乗り越えることを通じ、経済のグローバル化の進め方だけでなく、私たちの生き方と、日々の働き方や生活の仕方を、本当に変えられるかどうかが、「真理」によって、私たちに問われていることです。